

木立雅朗教授 略歴 主要著書・論文目録

略歴

1984年3月 立命館大学文学部史学科日本史学専攻 卒業

職歴

1987年6月 石川県立埋蔵文化財センター 嘱託

1989年4月 石川県立埋蔵文化財センター 主事

1995年4月 立命館大学文学部 助教授

2004年4月 立命館大学文学部 教授

委員会・協会等

2016年4月 一般財団法人京都陶磁器協会 審査委員

2016年6月 史跡備前陶器窯跡整備委員会 委員

2017年4月 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 調査指導委員

2017年4月 赤膚山元窯登り窯修理指導委員会 修理指導委員

2017年4月 立命館大学史資料センター センター長

2019年9月 洲本市教育委員会 史跡洲本城跡整備基本計画策定委員 (2024年3月まで)

論文

1984年3月「七尾市古府町周辺における古瓦の供給体制—国分廃寺を中心とした供給体制—」『石川考古学研究会々誌 (27)』石川考古学会 (単著)

1985年3月「湯屋瓦屋をめぐる問題」『辰口町湯屋古窯跡』辰口町教育委員会 (単著)

1985年3月「能美窯跡群の須恵器編年」『辰口町湯屋古窯跡』辰口町教育委員会 (共著)

1986年3月「小松市・二ツ梨窯跡群採集の須恵器について」『石川考古学研究会々誌 (29)』石川考古学会 (共著)

1986年3月「末松廃寺出土瓦の産地」『石川考古学研究会々誌 (29)』石川考古学会 (共著)

1987年2月「造瓦組織の歴史的発展についての覚書」『北陸の古代寺院』桂書房 (単著)

1987年3月「篠原遺跡出土瓦の系譜」『篠原遺跡』石川県立埋蔵文化財センター (単著)

1987年3月「門前町・大生製鉄遺跡群の¹⁴C年代測定」『石川考古学研究会々誌 (30)』石川考古学会 (共著)

1989年10月「北陸における瓦生産」『北陸の古代手工業生産』北陸古代手工業生産史研究会 (単著)

1992年5月「「絶対年代」の定義について」『北陸古代土器研究会 (2)』北陸古代土器研究会 (単著)

1992年10月「北陸の初期寺院について—蝦夷穴古墳が作られた頃の北陸—」『蝦夷穴古墳国際シンポジウム 古代能登と東アジア』蝦夷穴古墳国際シンポジウム実行委員会 (単著)

1993年3月「金沢城下復元図考」『石川考古学研究会々誌 (36)』石川考古学会 (共著)

1993年3月「木製櫛の変遷とその意義について—野本遺跡出土櫛の理解のために—」『石川県松任

- 市 野本遺跡 県営圃場整備事業御手洗・出城地区浜相川地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告』
石川県立埋蔵文化財センター（単著）
- 1993年5月「能登における7世紀の須恵器生産」『北陸古代土器研究（3）』北陸古代土器研究会
（単著）
- 1994年9月「能登における8世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究（4）』北陸古代土器研究会（単著）
- 1994年9月「能美窯跡群における8世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究（4）』北陸古代土器研究会
（単著）
- 1995年1月「近世の刻印と焼塩壺の刻印の比較—京都市本圀寺の刻印から—」『北陸近世遺跡研究
会会報』北陸近世遺跡研究会（単著）
- 1995年3月「北陸の焼塩壺—金沢城下出土の鉢形焼塩壺を中心に—」『石川考古学研究会々誌
（38）』石川考古学会（共著）
- 1995年10月「瓦から見た7世紀後半の北陸」『北陸古代土器研究（5）』北陸古代土器研究会（単著）
- 1997年5月「桶窯の民俗例—煙管状窯の焼成技法復原のための基礎作業—」『古代の土師器生産と
焼成遺構』真陽社（単著）
- 1997年5月「土師器焼成遺構を定義するために」『古代の土師器生産と焼成遺構』真陽社（単著）
- 1997年8月「北陸の古墳と寺院」『季刊考古学（60）』雄山閣（単著）
- 1997年10月「土師器生産遺跡で出土する焼土塊の性格—煙管状窯の「間仕切り」と窯壁について—」
『窯研通信（10）』窯跡研究会（単著）
- 1997年12月「小幡人形の桶窯」『立命館文学（551）』立命館大学人文学会（単著）
- 1997年12月「伏見人形の窯をめぐる—近世京都の窯業についての予察—」『立命館大学考古学
論集（I）』立命館大学考古学論集刊行会（単著）
- 1998年5月「福岡県柳川市・蒲池焼の空窯—桶窯の民俗例紹介—」『窯研通信（11）』窯跡研究会
（単著）
- 1998年8月「考古学から見た山科と山科本願寺」『戦国の寺・城・まち—山科本願寺と寺内町』
法蔵館（単著）
- 2000年6月「須原器杯類の製作実験ノート」『立命館文学（565）』立命館大学人文学会（単著）
- 2000年9月「篠窯跡群分布調査報告（一）」『立命館文学（566）』立命館大学人文学会（共著）
- 2001年3月「七尾市岩屋遺跡採集の土師器製作技術について」『石川考古学研究会々誌（44）』
石川考古学会（単著）
- 2001年4月「石川県内の遺跡出土須恵器の胎土—七尾市矢田遺跡を中心に—」『考古学ジャーナル
（471）』ニューサイエンス社（単著）
- 2001年5月「伏見人形と窯業—伏見人形の成立と発展をめぐる二つの背景—」『立命館大学考古学
論集（II）』立命館大学考古学論集刊行会（単著）
- 2001年5月「総括—須恵器の大甕造り—」『北陸古代土器研究（9）』北陸古代土器研究会（単著）
- 2001年5月「大甕造りの民俗例と須恵器大甕」『北陸古代土器研究（9）』北陸古代土器研究会（単著）
- 2001年11月「石川県産瓦の変遷 古代・近世」『北陸の瓦の歩み』日本セラミックス協会北陸支
部（単著）
- 2002年2月「古府タブノキダ遺跡、池崎窯跡」『新修七尾市史考古編I』七尾市（単著）

- 2002年7月「篠窯跡群分布調査報告(二)」『立命館文学(575)』立命館大学人文学会(共著)
- 2002年12月「京焼の上絵窯について」『金沢大学考古学紀要(26)』金沢大学文学部考古学講座(単著)
- 2003年2月「篠窯跡群分布調査報告(三)」『立命館文学(578)』立命館大学人文学会(共著)
- 2003年5月「『刷毛目』調整と工具の基礎的研究1—「刷毛目」研究の課題と役割—」『立命館大学考古学論集(Ⅲ)』立命館大学考古学論集刊行会(単著)
- 2003年10月「加賀・能登の古代仏教遺跡—瓦偏重からの脱皮と「堂」・山寺の評価に寄せて—」『北陸古代土器研究(10)』北陸古代土器研究会(単著)
- 2004年3月「篠窯跡群分布調査報告(四)」『立命館文学(584)』立命館大学人文学会(共著)
- 2004年3月「北陸における「古代寺院」研究の課題」『金沢市史会報(20)』金沢市史編纂室(単著)
- 2005年5月「遺跡速報 京都市・鳴滝乾山窯跡の発掘調査」『考古学ジャーナル(530)』ニューサイエンス社(単著)
- 2005年5月「近世鉛釉系陶器の窯について—鳴滝乾山窯跡発掘資料を基点にして—」『立命館大学考古学論集(Ⅳ)』立命館大学考古学論集刊行会(単著)
- 2007年5月「奈良県赤膚焼の登り窯調査報告」『窯跡研究(2)』窯跡研究会(共著)
- 2007年5月「窯壁と窯構造—京都府篠窯跡群三軒屋支群の分布調査から考える—」『窯跡研究(2)』窯跡研究会(単著)
- 2007年11月「鳴滝乾山窯跡の発掘調査」『乾山の芸術と光琳』NHKプロモーション(共著)
- 2007年11月「瓦範についての覚書」『明日をつなぐ道—高橋美久二先生追悼文集—』京都考古刊行会(単著)
- 2008年3月「乾山焼研究の課題—鳴滝窯を中心にして—」『文部科学省グローバルCOEプログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)2007年度報告書』文部科学省グローバルCOEプログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)(単著)
- 2008年5月「須恵器坏類の製作実験ノート2—ヘラ起こし技法による丸底化と「正円の沈線」をめぐって—」『吾々の考古学』和田晴吾先生還暦記念論集刊行会(単著)
- 2008年12月「考古学から見た土人形の出現と展開—偶像・明器・人形の歴史的展開を中心に—」『関西近世考古学研究(16)』関西近世遺跡研究会(単著)
- 2009年3月「考古学から見た土人形の出現と展開—偶像・明器・形代・玩具の歴史的展開を中心に—」『デジタル時代のメディアと映像に関する総合的研究 平成18年度～平成20年度私立大学学術研究高度化推進事業(「オープン・リサーチ・センター整備事業」)研究報告書』立命館大学アート・リサーチセンター(単著)
- 2009年11月「瓦が語る古代の文明開化」『ふるさとシンポジウム いまよみがえる末松廃寺』野々市町・野々市町教育委員会(単著)
- 2009年11月「北陸の古代雷文縁軒丸瓦について」『古代瓦研究会シンポジウム記録 古代瓦研究4 法隆寺式軒丸瓦の成立と展開 雷文縁・幅線文縁・重圏文複弁蓮華文軒丸瓦の展開』古代瓦研究会(国立文化財機構奈良文化財研究所)(単著)
- 2010年2月「粘土紐接合痕の変化」『釜山大学校考古学科創設20周年記念論文集』釜山大学校考

古学科 (単著)

- 2010年5月「丹波・篠窯跡群の「小型窯」について—窯構造をめぐる問題提起—」『古代須恵器窯業の基礎研究—須恵器窯の技術と系譜—』真陽社 (単著)
- 2010年5月「実験考古学から見た須恵器窯の築造と焼成2 —実験考古学と民俗考古学—」『古代窯業の基礎研究—須恵器窯の技術と系譜—』真陽社 (単著)
- 2010年5月「信楽焼陶器製地雷について—聞き取り調査と研究ノート—」『立命館大学考古学論集 (V)』立命館大学考古学論集刊行会 (単著)
- 2011年1月「京焼・清水焼と近現代の考古学—仁清・乾山から陶器製手榴弾まで—」『立命館大学京都文化講座「京都に学ぶ」(6)』白川書院 (単著)
- 2012年1月「須恵器窯の歩き方—篠窯跡群分布調査のために—」『立命館文学 (624)』立命館大学人文学会 (単著)
- 2012年7月「道仙化学製陶所窯跡第5次発掘調査成果報告」『立命館文学 (627)』立命館大学人文学会 (共著)
- 2013年5月「須恵器生産における「专业化」と「窯場」—『立杭窯の研究』から見た覚書—」『立命館大学考古学論集 (VI)』立命館大学考古学論集刊行会 (単著)
- 2013年10月「小栗栖瓦窯・法琳寺採集瓦塼と土器—京都考古学研究会採集の資料から—」『東アジア瓦研究 (3)』東アジア瓦研究会 (共著)
- 2014年3月「「能登」の形成と古代寺院—瓦から見た古代社会—」『石川考古 (319)』石川考古学研究会 (単著)
- 2015年3月「元藤平陶芸登り窯について—遺構と記録—」『元藤平陶芸登り窯の歴史的価値等調査研究報告書』京都市 (単著)
- 2015年8月「京都における戦争遺跡の調査と活用」『別冊 季刊考古学 (24)』雄山閣 (共著)
- 2016年1月「京都の戦争遺跡—家庭用防空壕と伝統産業—」『明日への文化財 (74)』文化財保存全国協議会 (単著)
- 2016年4月「今月の言葉 煮炊き道具としての土器の呼び方」『考古学ジャーナル (682)』ニューサイエンス社 (単著)
- 2016年4月「中世の土鍋による炊飯方法：草戸千軒町遺跡の土器使用痕分析」『考古学ジャーナル (682)』ニューサイエンス社 (共著)
- 2016年5月「京都の伝統工芸と戦争 その一 清水焼の陶器製手榴弾」『調査情報 (530)』TBSメディア情報研究所 (単著)
- 2016年6月「五条坂の登り窯と京都の土」『なごみ (438)』淡交社 (単著)
- 2016年7月「京都の伝統工芸と戦争 その二 信楽・川越・沖縄を結ぶ陶器製手榴弾と陶器製地雷」『調査情報 (531)』TBSメディア情報研究所 (単著)
- 2016年9月「Comparisons of Different Configurations for Image Colorization of Cultural Images Using a Pre-trained Convolutional Neural Network」『Proceedings of JADH 2016 Conference』The Japanese Association for Digital Humanities (共著)
- 2016年9月「京都の伝統工芸と戦争 その三 近現代遺跡・戦争遺跡の現在—考古学と銃刀法と社会—」『調査情報 (532)』TBSメディア情報研究所 (単著)

- 2016年11月「京都の伝統工芸と戦争 その四 京町家と「防空壕」―「逃げるな、火を消せ」―」
『調査情報 (533)』TBS メディア情報研究所 (単著)
- 2017年1月「京都の伝統工芸と戦争 その五 友禅に描かれた戦争「韓国併合」と「爆弾三勇士」」
『調査情報 (534)』TBS メディア情報研究所 (単著)
- 2017年1月「京都の土と窯―発掘現場からみた伝統工芸と京都の土と石の関係―」『立命館文学
(649)』立命館大学人文学会 (単著)
- 2017年3月「京都の伝統工芸と戦争 その六 京焼登り窯の現在、煙突と公害」『調査情報 (535)』
TBS メディア情報研究所 (単著)
- 2017年5月「海を越える窯業―須恵器から明治まで、近年の京都における民俗考古学的検討から―」
『石川県埋蔵文化財情報 (37)』石川県埋蔵文化財センター (単著)
- 2017年5月「京都の伝統工芸と戦争 その七 伝統工芸の現在―戦争をくぐり抜けてきた京都とその
未来―」『調査情報 (536)』TBS メディア情報研究所 (単著)
- 2017年7月「京都の伝統工芸と戦争 その八 戦跡考古学の今後の課題は」『調査情報 (537)』TBS
メディア情報研究所 (共著)
- 2017年10月「回転運動を利用した成形―ロクロと回転運動―」『モノと技術の古代史 陶芸編』
吉川弘文館 (単著)
- 2018年5月「京式登り窯の築窯・修復・改造」『やきもの つくる・うごく・つかう』近代文藝社
(単著)
- 2019年2月「小規模美術館が所蔵する作品のデジタル化―藤平伸記念館を例に―」『生活造形
(64)』京都女子大学生生活造形学科 (共著)
- 2019年3月「河井寛次郎と京焼の生産システム―登り窯を「受け継ぐ」意味―」『近代京都の美術
工芸―制作・流通・鑑賞―』思文閣出版 (単著)
- 2019年3月「考古学の立ち位置と感性」『ジョウモン・アート 芸術の力で縄文を伝える』ジョウ
モン・アートプロジェクト実行委員会 (単著)
- 2019年5月「瓦窯の構造～傾斜角度と天井の問題～」『古代東国の国分寺瓦窯』高志書院 (単著)
- 2019年8月「問題提起 13 「京都学」は成立するのか？」『地方史研究 69 (4)』地方史研究協議会
(単著)
- 2020年3月「モノを通じて見た地域の歴史―伝統工芸から見た京都の現在・過去・未来」『文化的
景観研究集会 (第10回) 報告書 風景の足跡―考古学からの文化的景観再考―』国立文化財機
構奈良文化財研究所 (単著)
- 2020年3月「能登国誕生―能登立国―三〇〇年 古代の能登―」『七つ尾 (37)』七尾城址文化事
業団 (単著)
- 2020年5月「胎土分析の目的と方法の研究史的再検討―学問の伝統と一般性をめぐる紙上鼎談―」
『窯跡研究 (4)』窯跡研究会 (共著)
- 2020年6月「大学・考古学・埋蔵文化財行政―近現代考古学がつなぐ社会―」『歴史学研究 (997)』
績文堂出版 (単著)
- 2020年9月「登り窯の終焉と記憶をめぐる文化資源―五条坂・道仙化学製陶所の民俗考古学―」
『令和元年度 京都府域の文化資源に関する共同研究会報告書 (洛東編)』京都府立京都学・歴

彩館（単著）

- 2021年3月「登り窯の受難—清水焼と五条坂の戦中戦後—」『京都を学ぶ—文化資源を発掘する—（洛東編）』ナカニシヤ出版（単著）
- 2022年3月「伝統工芸の道具類の保存と活用—京焼登り窯を中心に—」『立命館史学（41）』立命館史学会（単著）
- 2023年11月「観光公害と文化遺産—京都の伝統工芸に関わる史資料の現状と課題から—」『歴史評論（883）』歴史科学協議会（単著）
- 2024年1月「遺跡の上で暮らす—歴史都市京都における近現代遺跡の保存と活用を中心に—」『明日への文化財（90）』文化財保存全国協議会（単著）
- 2024年5月「窖窯の焼成原理—民俗考古学・実験考古学から考える須恵器窯と瓦窯—」『瓦窯の構造研究』真陽社（単著）
- 2024年6月「観光公害と文化遺産—京都の伝統工芸の現状と課題から—」『歴史評論（890）』歴史科学協議会（単著）
- 2024年6月「五条坂京焼登り窯（旧藤平）の発掘調査と三次元計測」『立命館大学考古学研究報告 1 Digging Up（1）』立命館大学考古学・文化遺産専攻（単著）
- 2024年7月「《五条坂南側町並散華の図》を読む—伊吹弘による鎮魂」『近代京都の美術工芸Ⅱ—学理・応用・経営—』思文閣出版（単著）
- 2025年3月「「赤い土」を白く焼く—土器焼成技術の基礎研究ノート—」『吉岡康暢先生卒寿記念論文集 学究無限』吉岡康暢先生卒寿記念論文集刊行会（単著）